

# おもな学校感染症一覧表



生徒が感染症と医師より診断された場合、本人の安静と集団への感染・流行を防ぐため、出席停止となります。  
 医師より診断された内容を担任に連絡し、下記の出席停止期間を参考に医師の許可があるまで家庭で安静にしてください。  
 なお、治癒後の登校については、必ず医師の診断を受け、登校許可書を記入していただき、登校時に提出してください。



## ○第1種感染症 治癒するまで出席停止

エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(SARS)、鳥インフルエンザ

## ○第2種感染症 学齢期に多い感染症

病名	出席停止期間	主な症状	感染経路	潜伏期間	感染可能期間	好発季節
新型コロナウイルス感染症	発症日翌日から5日間経過し、症状軽快から24時間以上経過するまで	発熱・咳・のどの痛み・頭痛・鼻水だるさ・味覚嗅覚障害など	エアロゾル・飛沫・接触	1~2週間	発症2日前~発症後7~10日程度	通年
インフルエンザ	発症日翌日から5日経過し、かつ解熱した後2日を経過するまで	急な発熱、全身倦怠感、関節痛、頭痛、咳、鼻水、のどの痛み	飛沫	1~3日	発病後3~4日	冬 12~3月
百日咳	特有の咳が消失するまで または5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで	コンコンという短く激しい咳が続く	飛沫	1~2週間	発病後28日	夏
麻疹(はしか)	解熱後3日を経過するまで	発熱、咳、鼻水、目やに、結膜充血、頬の内側にコブ状の斑(白点)ができる 発熱後4日目より皮膚に発疹	飛沫	10~12日	発疹の出る5日前~後4日	冬~春
流行性耳下腺炎(おたふく)	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで	37~38℃の発熱。 片側~両側の顎の後ろが腫れて痛む。 食欲不振、嚥下困難	飛沫	1~2週間	発病7日前~ 発病後9日	冬~春
風疹(3日ばしか)	発疹が消失するまで	発熱、発疹、耳の後ろ・首・脇の下などが腫れる。咳、結膜の充血	飛沫	2~3週間	発疹が出る7日前~ 出た後7日	春~夏
水痘(水ぼうそう)	全ての発疹が痂皮化するまで	水疱のある発疹が体中に次々できるかさぶたになり、先に出たものからなおっていく	飛沫直接	2~3週間	発疹が出る1日前~ 出た後7日	冬~春
咽頭結膜熱(プール熱)	主要症状が消失した後、2日を経過するまで	発熱、のどの痛み、結膜の充血、首のリンパ節の腫脹	結膜接触 汚染物	5~7日	発病後2~3週間	夏~秋
結核	感染のおそれが無くなるまで	初期は自覚症状無し。 X線で発見されることが多い。 疲労感、寝汗、微熱、体重減少、肩こり、咳、たん	飛沫	1~2ヶ月		なし
髄膜炎菌性髄膜炎	感染のおそれが無くなるまで	高熱、頭痛、嘔吐、頸部硬直 早期の治療が必要	飛沫	2~5日		なし

## ○第3種感染症 ただし第3種のその他の感染症については病気が治癒してなくても診断によっては出席停止とならない場合があります。医師の指示にしたがってください。

病名	出席停止期間	主な症状	感染経路	潜伏期間	感染可能期間	好発季節
流行性角結膜炎	症状により 学校医、 その他の医師に おいて感染のおそれが ないと認めるまで  	眼の異物感、涙がよく出る、目やに、結膜の充血	結膜接触 汚染物	5~7日	発病後2~3週	春~夏
急性出血性結膜炎		眼の痛み、きつい充血、出血してくる	結膜接触 汚染物	1~2日	発病後5~7日	
腸管出血性大腸菌感染症(O-157)		激しい腹痛、水様性の下痢、嘔吐、吐き気	経口	3~8日		夏
ヘルパンギーナ		高熱(38~39℃)ののどの痛み、発赤、のどの奥に小さな水疱疹、潰瘍	飛沫	2~7日	発病後2~3日	
溶連菌感染症		高熱(39℃)発疹、扁桃の発赤や腫れ、のどの痛み、いちご舌	飛沫	2~5日	治療開始24時間	
マイコプラズマ感染症		発熱、乾性の激しい咳が続く、のどの痛み、胸部レントゲン陰影	飛沫	2~3週間	急性期	
伝染性紅斑(リンゴ病)		両頬に少し盛り上がった蕁麻疹様の発疹、手足に網目状の紅斑、発熱	飛沫	10~20日	発疹の出る1~2週間前の数日間	冬~春
手足口病		軽い発熱(2~3日)小さな水疱が口の中や手足にできる	飛沫	2~7日	症状がある間	夏
RSウイルス感染症		発熱、鼻水、咳、喘鳴、呼吸困難	飛沫 接触	2~8日	発症前~3週間	冬
感染性胃腸炎(ノロウイルス他) 流行性嘔吐下痢症(ロタ)		発熱、腹痛、下痢、嘔吐 便が白くなる(ロタ)	経口 飛沫	1~3日	症状がある間	
アタマジラミ・伝染性軟属腫(水いぼ)・伝染性膿痂疹(とびひ)	登校しながらの治療が可能です	出席停止の必要はありませんが担任にはご連絡下さい				